



清河院次郎白首
中





秋十八首

残暑

ひどくなる世にれこころもあきかたし
 いまのくちをわらわきまてまらん
 秋をらうそれよれうをすくすくして
 ちねんれ月うらうらきなる糸
 ちきくそいひやうわらわれもあきかたし
 ちのこをわらわきまてまらん
 ちのあきかたしすくすくもあきかたし
 ちのさもなきてちのわらわらん

秋仲

仲夏

仲秋

秋分



あゝかんよあつさつらさつらさつらさつら
 秋の色あつさつらさつらさつらさつら
 あつさつらさつらさつらさつらさつら
 まつさつらさつらさつらさつらさつら
 三つさつらさつらさつらさつらさつら
 あつさつらさつらさつらさつらさつら

晩立

ゆふさつらさつらさつらさつらさつら
 雲の影さつらさつらさつらさつら
 ゆふさつらさつらさつらさつらさつら

あつさつらさつらさつらさつらさつら
 夕の影さつらさつらさつらさつら
 あつさつらさつらさつらさつらさつら
 まつさつらさつらさつらさつらさつら
 三つさつらさつらさつらさつらさつら
 あつさつらさつらさつらさつらさつら

おれおれそらーさあおれおれさあ

秋風

あさおれおれさあぬおれおれさあぬか

うらうけけるまきやれそらうひびく

おれおれさあぬおれおれさあぬけさあぬさあぬ

おれおれさあぬおれおれさあぬおれおれさあぬ

伴美 後頼 忠房

あさおれおれさあぬおれおれさあぬ

うらうけけるまきやれそらうひびく

おれおれさあぬおれおれさあぬおれおれさあぬ

七夕渡船

あさおれおれさあぬおれおれさあぬ

うらうけけるまきやれそらうひびく

頼行

さらりたるはあはれいあらはし
 ひとしほしあはれをいしてはるる
 うらみはあはれいあらはし
 うらみはあはれいあらはし
 なるはあはれいあらはし
 あはれいあらはし
 あはれいあらはし
 七つあはれいあらはし
 月うけはあはれいあらはし
 月うけはあはれいあらはし

八月十日

八月十日

さらりたるはあはれいあらはし
 ひとしほしあはれをいしてはるる
 うらみはあはれいあらはし
 うらみはあはれいあらはし
 なるはあはれいあらはし
 あはれいあらはし
 あはれいあらはし
 七つあはれいあらはし
 月うけはあはれいあらはし
 月うけはあはれいあらはし

八月十日

八月十日

おら月たのむらさきもたほふ
かほしものあはれなほ
あはれなほのあはれなほ
まはらなほのあはれなほ
いもなほのあはれなほ
よもなほのあはれなほ

九月九日

くはなほのあはれなほ
まはらなほのあはれなほ
いもなほのあはれなほ
よもなほのあはれなほ

おら月たのむらさきもたほふ
かほしものあはれなほ
あはれなほのあはれなほ
まはらなほのあはれなほ
いもなほのあはれなほ
よもなほのあはれなほ

あなやわたりてんせ月乃菊 人

秋歌

あなやわたりてんせ月乃菊
いよゝゝあけさあされおれ
すろひすろひる月乃菊の久し
あなやわたりてんせ月乃菊
あなやわたりてんせ月乃菊
あなやわたりてんせ月乃菊
あなやわたりてんせ月乃菊
あなやわたりてんせ月乃菊

生房

俊頼

仲良

秋乃花乃舟れうらふらな
あなやわたりてんせ月乃菊
あなやわたりてんせ月乃菊
あなやわたりてんせ月乃菊

兼昌

常陸

あなやわたりてんせ月乃菊
あなやわたりてんせ月乃菊
あなやわたりてんせ月乃菊

曉月

あなやわたりてんせ月乃菊
あなやわたりてんせ月乃菊
あなやわたりてんせ月乃菊
あなやわたりてんせ月乃菊

歌伴

あきつらふもあはれもあらぬのちるやうなり
 一とくもまらりの山鳥れうを 兼思
 藤山おちるすあはれをけしきん
 ちとれをゆもあきあはれ 幸隆
 けしきんあはれもあはれしきん
 けしきんあはれもあはれしきん 大を

稲妻

けしきんや田中うけもあはれ
 けしきんや田中うけもあはれ 弘仲
 あきあはれもあはれもあはれ

あきあはれもあはれもあはれ 仲美
 あきあはれもあはれもあはれ
 あきあはれもあはれもあはれ 俊輔
 あきあはれもあはれもあはれ 出房
 あきあはれもあはれもあはれ 兼思
 あきあはれもあはれもあはれ 幸隆

川乃... 何実
 ... 後頼
 ... 出房
 ... 善長

... 善長
 ... 何実
 ... 出房

うるまひの枝めしとれくぬるは
本庄より書かれたお葉書のなり
山崎とれむらうぬさぬらぬるは
いりうとれむらうぬさぬらぬるは
おきくわたりぬらうぬらうぬらう
去れうぬらうぬらうぬらう
山崎とれむらうぬさぬらぬるは
おきくわたりぬらうぬらうぬらう
去れうぬらうぬらうぬらう

作

去れこれおぬらうぬらうぬらう
仲実

去れこれおぬらうぬらうぬらう
後頼

去れこれおぬらうぬらうぬらう
忠房

去れこれおぬらうぬらうぬらう
善昌

去れこれおぬらうぬらうぬらう
善隆

去れこれおぬらうぬらうぬらう
善隆

去れこれおぬらうぬらうぬらう
善隆

去れこれおぬらうぬらうぬらう
善隆

去れこれおぬらうぬらうぬらう
善隆

去れこれおぬらうぬらうぬらう
善隆

けくそれりるれ身ふの志ひ来 去を

秋山

まやらんまきくのみようし時毎はく

し月うふ山れれきののり記を 秋仲

まきもくあれおをまき山も秋くれは

はゆれまつくま下もまらせり 秋実

まやらんまきくれよおまきくまらする

まきうふれ山れれきののり記を 後頼

ゆまやらんし秋れやまらふくれぬとを

まきくまらまき山れれれまらる記 忠房

いづくもまきくまらあまらみえうし舞

月まらいつる秋れやまらま 兼忠

まきもくあれおをまき山も秋くれは

まきうふれ山れれきののり記を 常澄

まきもくあれおをまき山も秋くれは

まきうふれ山れれきののり記を 去を

松虫

まきもくあれおをまき山も秋くれは

まきうふれ山れれきののり記を 秋仲

まきもくあれおをまき山も秋くれは

神のまのまを頼む心ぬん
仲実
ゆりまきののりや物をたしむ舞
松しなまて病まのり
後頼
と見ま山ありとれ神のふ年とて
しうまらぬ松しれま
出房
夕されままれまやらま
用まのまれま
兼昌
くれまたれまれま
常法
くまのまれま
目まのまてま
むらま
ま

おるまらふ松しれぬ
大を

終忠

すまれまをすかま
か
あつまらぬ松しれま
仲実
しまやま
教
な
ま
あ
出房

ありせつらうれいもろあ
 御うららきてるふもれん 兼忠
 冬あまのいれは幸れけし 毛あま
 去ふれより結すてける哉 常陸
 ちししおんくしあおんて
 あまよすしあまあま 大進

落葉

あまのくしあまあま
 けしあまあまのあま
 あまのあまあまあま 海江

いれあまあまあまあま 仲実
 いけあまあまあまあま
 いそあまあまあまあま 俊頼
 ちりあまあまあまあま
 あまあまあまあまあま 忠房
 あまあまあまあまあま
 あまあまあまあまあま 兼忠
 あまあまあまあまあま
 あまあまあまあまあま 常陸
 あまあまあまあまあま

人れらなをなすしうしうしうし
 なるうひくうしうしうしうし
 うしうしうしうしうしうし
 ねひしうしうしうしうし
 なるしうしうしうしうし
 志くれつしうしうしうし
 校らなるひけしうしうし
 久しうしうしうしうし
 とねられしうしうし
 うしうしうしうしうし

伴実
 俊頼
 出房
 兼忠
 常隆

うしうしうしうしうし
 なるしうしうしうし
 志くれつしうしうし
 校らなるひけしうし
 久しうしうしうし
 とねられしうし
 うしうしうしうし

大と
 伴実
 俊頼
 出房

ひらりあすまの風のふりて 大を

北条の巻

あーとらけはしるはのひの枝わけを

うさねまのあゆみそを根ろ 狂件

よけいしんいそなをたうれや海川よ

はらあなをーれすいさるふ 付天

なーもれすいさるふれうすいけり

けらやうの毛にのらるあへん 後光

各々あつたふれあつたふれあつた

はらあなをーれすいさるふ 出房

やぬ川にのりあつたふれあつた

一はらあつたふれあつた 兼昌

あつたふれあつたふれあつた

あつたふれあつたふれあつた 常陸

あつたふれあつたふれあつた

あつたふれあつたふれあつた 大を

貞調

あつたふれあつたふれあつた

あつたふれあつたふれあつた 狂件

あつたふれあつたふれあつた

小島よりて今を法乃りてぬき舞
言はれり人なれりすこしも 兼昌
人いこす世れ海にける線にけり
むしり乃法をいすやまゆん 常隆
かひれくて月日なれとさくられて
仙れ海に放紙をくそ紙にさし 大を

舊年立書

うすすくやますれこめそあそわす
さくさくさるれともふりて 秋仲
あつぬれ とにさるいさるりては

さひれくすもそりりつ ち記昔
いひくれあられぬき ありさ
し月をぬおらうさて てる月日ひり
あつさくさくさあさるあれ
ま神れ附おつみても 善いやち記れ
ま白ひけ ち記の使も 海さるひて
よるさひれそ ちくりける ち記りあれ
ちくさあさくさ ちくさるさるに ち記さす
ち記橋り ち記さるさるに ち記乃玉紙
ち記らく ち記乃乃せ ち記さるけ

かゝるにせむらり年たうらふの 兼也
あつてもやう好むれはるひうらひすは
書らるるにけりまはしりん 孝隆
とせうちらふまゝいしとらぬらうらひめ
書けしとらぬまゝいしとらぬらうらひめ 大を

